

平成26年度

県民選好度調査結果

【速報版】

平成26年11月21日

茨城県企画部

1. 調査概要

標本抽出法	無作為抽出法（全市町村人口比例配分）
調査期間	平成26年8月13日～8月31日
実施方法	郵送法
回収率	40.5%（1,946名／4,800名）

2. 調査結果

（1）住みやすさの評価 ～『住みやすい』が7割以上～

- 現在住んでいる地域の「住みやすさの評価」は、「住みやすい」（注1）が72.5%、「なんともいえない」が16.4%、「住みにくい」（注2）が10.5%であった。

（注1）「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計。以下、同じ。

（注2）「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の合計。以下、同じ。

- 過年度調査と傾向を比較すると「住みやすい」は、2004年調査から2009年調査にかけて8.1%減少したが、今回は、前回調査（2009年）から6.6%増加した。

とても住みやすい

 どちらかといえば住みやすい

 なんともいえない

 どちらかといえば住みにくい

 とても住みにくい

 無回答

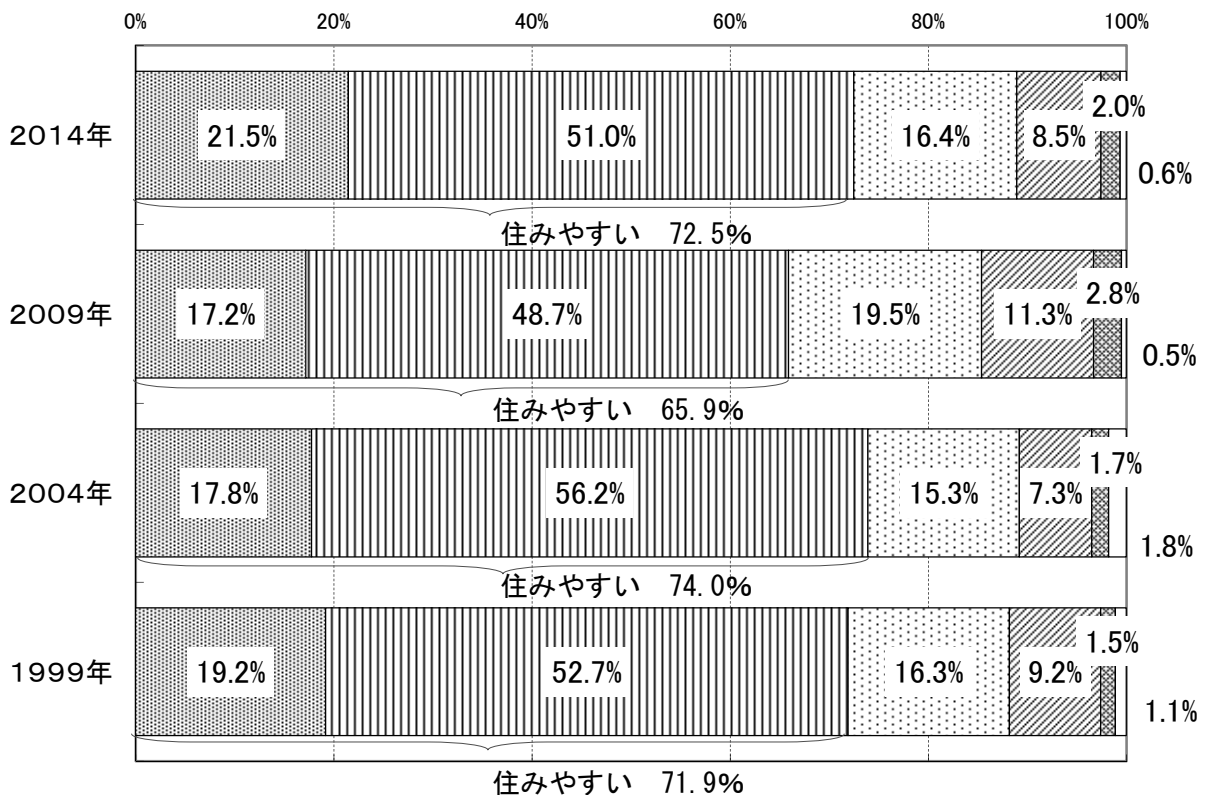


図 1.1.1 住みやすさ評価 (n=1946)

(2) 定住・転居の理由

① 県民の定住意識 ～『住みたい』が約7割～

○ 県民の定住意識は、「住みたい」(注3)が69.6%、「なんともいえない」が17.6%、「移りたい」(注4)が10.8%であった。

(注3)「ずっと住みたい」「できるならば住みたい」の合計。以下、同じ。

(注4)「なるべく早く移りたい」「できるならば移りたい」の合計。以下、同じ。

○ 過年度調査と傾向を比較すると「住みたい」は2004年調査から2009年調査にかけて3.0%減少したが、今回は、前回調査に比べ1.4%と若干増加した。

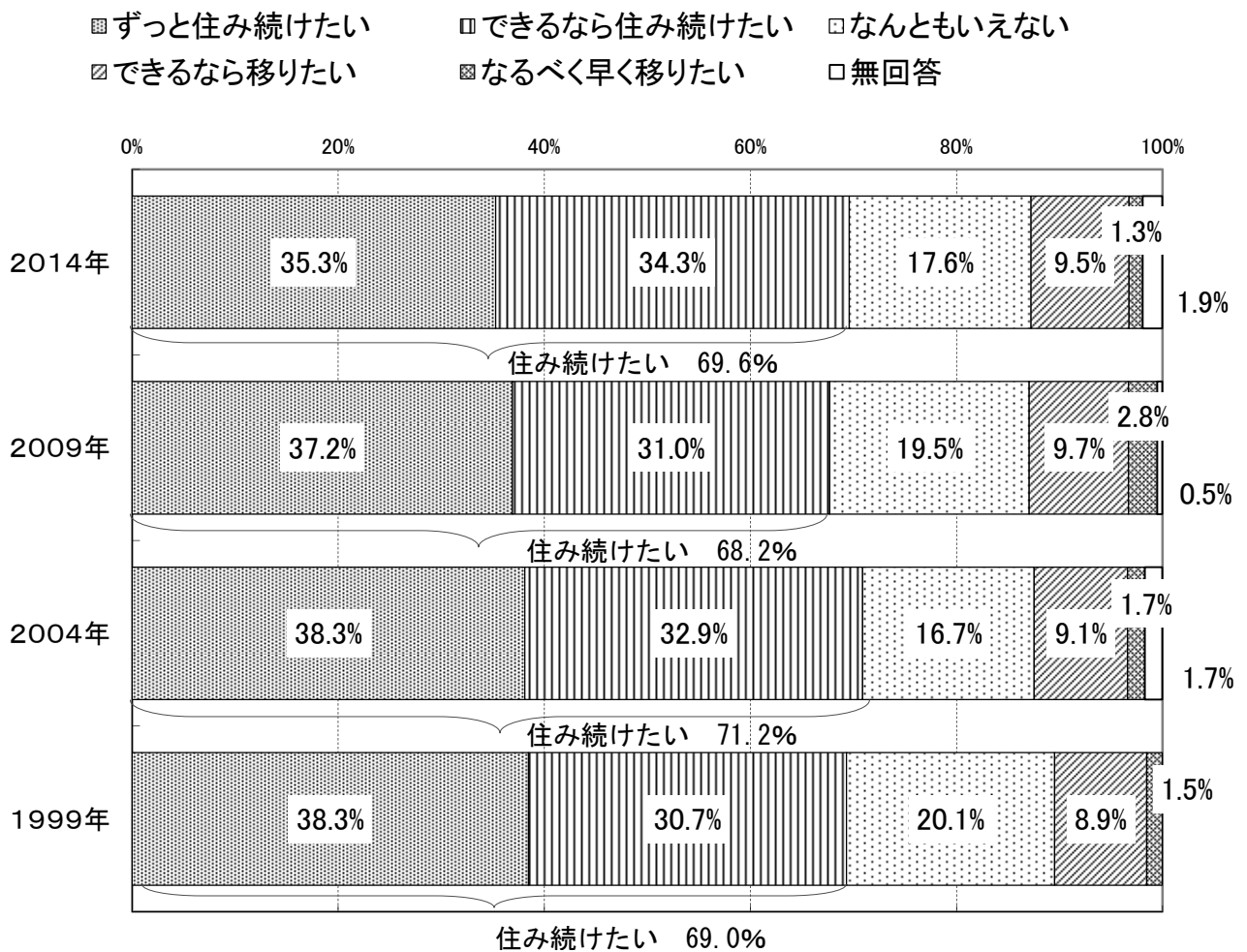


図 1.2.1 定住意向評価 (n=1946)

② 住み続けたい理由 ～『愛着がある』が半数以上～

- 住み続けたい理由としては、半数以上が「長く住んでおり愛着がある」(54.5%)を挙げ、次いで「自然環境にめぐまれている」(11.7%)、「まちが便利で魅力がある」(9.4%)となった。
- 前回調査では「長く住んでおり愛着がある」(55.3%)、「自然環境にめぐまれている」(12.9%)、「まちが便利で魅力がある」(8.3%)の順であった。
- 今回調査でも上位3理由は同じであり、その割合も「長く住んでおり愛着がある」は0.8%減少、「自然環境にめぐまれている」は1.2%減少、「まちが便利で魅力がある」は1.2%増加と、微増減であった。

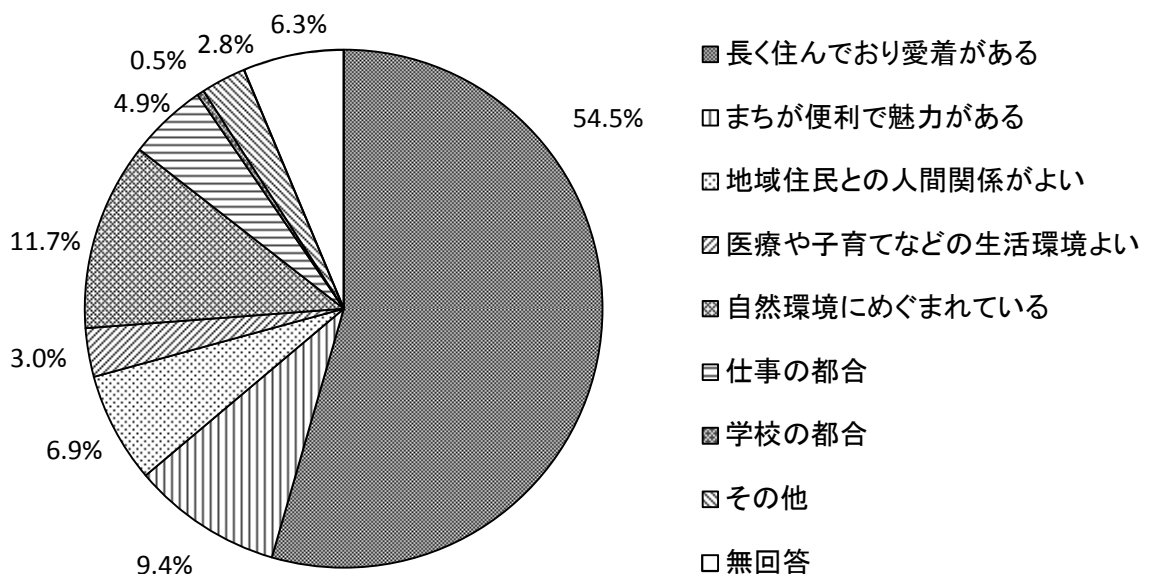


図 1.2.2 住み続けたい理由 (n=1320)

③ 移りたい理由 ～『まちが不便で魅力がない』が約4割～

- 移りたい理由としては、約4割が「まちが不便で魅力がない」(37.4%)を挙げており、それ以外の理由では、「医療や子育てなどの生活環境が悪い」(13.3%)、「愛着がもてない」(8.1%)、「地域住民との人間関係が悪い」(6.6%)と続くが、「その他」(18.0%)と「無回答」(11.4%)を合わせると29.4%と約3割を占めており、移りたい理由は、一概に言えない部分も多いと考えられる。
- 前回調査では、「まちが不便で魅力がない」(36.2%)、「愛着がもてない」(11.8%)、「地域住民との人間関係が悪い」(7.7%)の順であった。
- 今回調査では、「医療や子育てなどの生活環境が悪い」が前回の4.9%から8.4%増え、2番目に順位を上げたほか、最も多い理由の「まちが不便で魅力がない」も前回の36.2%から1.2%増加した。

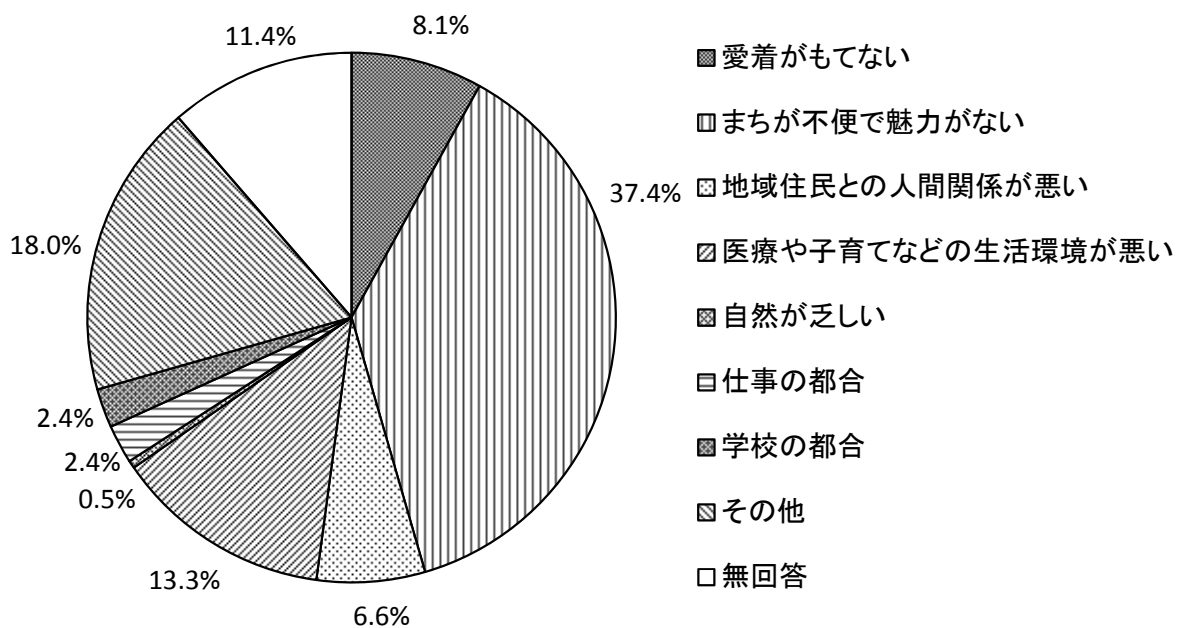


図 1.2.3 移りたい理由 (n=211)

(3) 社会環境の変化

～高齢化社会への不安が大きい。また、大規模災害への備えが不十分は7割～

◆ 社会環境の変化について

- 社会環境の変化のうち、「不安に思う」との回答が最も多かったのは、「高齢化の進行」(82.8%)で8割を超えており、次いで、「人口の減少」(66.2%)、「エネルギー」(65.1%)が6～7割を占めている。
- 一方、「地域コミュニティの維持」については、「不安に思う」が40.5%と4割を占めたほか、「今後の国際化」(30.2%)、「今後の情報通信社会の進展」(33.1%)は約3割となっている。
- 前回調査と比べると「高齢化の進行」(88.6%→82.8%)、「人口の減少」(76.5%→66.2%)、「今後の国際化(外国人との共生)」(39.7%→30.2%)はいずれも不安度合が低下した。

◆ 大規模災害への備えについて

- 大規模災害への備えが「不十分である」は69.7%と約7割を占め、「十分である」は4.5%にとどまった。
- 一方、「わからない」(23.6%)、「無回答」(2.2%)は合わせて25.8%と4分の1を占めている。

◆ 行政サービスの民営化や市民団体への委託について

- 「進めるべき」(36.2%)は「やめるべき」(10.6%)に比べ25.6%多いが、一方で、「わからない」(50.8%)、「無回答」(2.4%)が過半を占めている。
- 前回調査と比べ「進めるべき」が0.1%、「やめるべき」が3.4%とそれぞれ減少し、「わからない」が5.2%増加した。

今後の人口減少
 今後の高齢化の進行
 地域コミュニティの維持
 今後の国際化
 今後のエネルギー
 今後の情報通信社会の進展
 大規模災害への備え
 行政サービスの民営化や市民団体への委託

不安に思う 不安に思わない わからない 無回答
 十分である 不十分である わからない 無回答
 進めるべき やめるべき わからない 無回答

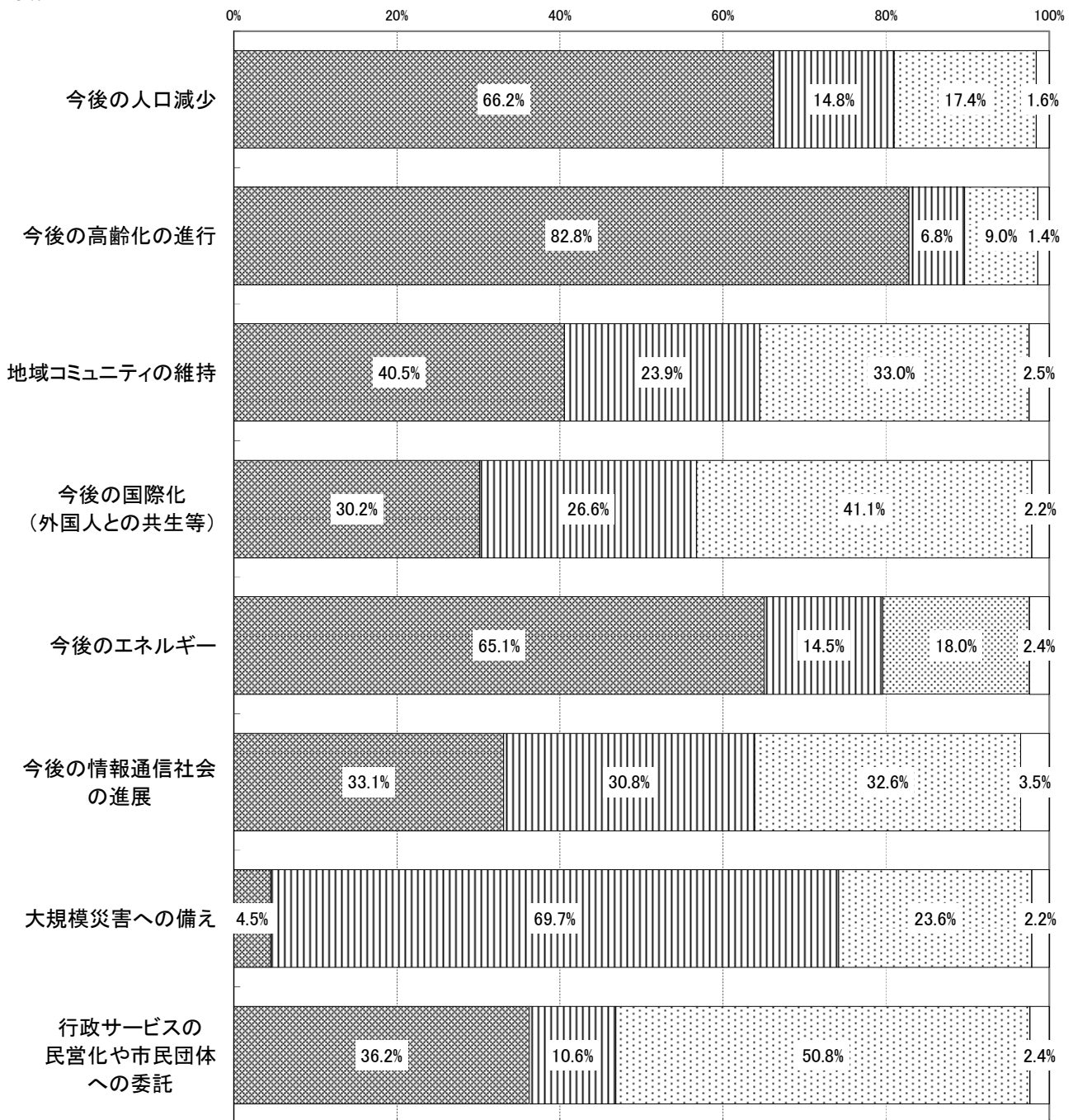


図 1.3.1 環境の変化 (n=1946)

(4) 県民ニーズ

今回の調査では、前回調査の30項目から新たに「地産地消」、「震災からの復旧・復興」、「買物弱者」、「イメージアップ」、「女性・高齢者の社会参加」の5項目を追加し、計35項目について県民の重要度、満足度を調査した。

① 重要度

～前回調査に続き『医療環境』がトップ、次いで『原子力関連の安全対策』～

※重要度は「とても重要である：5点」「重要である：4点」「どちらともいえない：3点」「あまり重要でない：2点」「全く重要でない：1点」として項目ごとに回答者の平均値を算出した。数値が5点に近くなるほど重要度は高くなる。

- 重要度は「医療環境」（平均 4.27）が最も高く、以下、「原子力関連の安全対策」（同 4.18）、「防犯」（同 4.17）、「老後の保障」（同 4.16）、「食の安全」（同 4.11）と続く。
- 前回調査と上位10項目を比べると、1位の「医療環境」や3位の「防犯」、8位の「交通安全」は同じ順位であったが、「原子力関連の安全対策」（9位→2位）や「食の安全」（13位→5位）が順位を上げ、一方で、「老後の保障」（2位→4位）や「雇用安定」（4位→14位）、「環境衛生」（5位→7位）、「高齢者福祉サービス」（6位→10位）が順位を下げた。
- 20位までの間に、今回追加した「震災からの復旧・復興」（11位）、「地産地消」（12位）、「買物弱者」（20位）の3項目が入っている。

重要度順位		2004年	重要度順位		2009年	重要度順位		2014年	前回比較
No.	項目	得点	No.	項目	得点	No.	項目	得点	ポイント差
1	救急医療	4.44	1	医療環境	4.55	1	医療環境	4.27	-0.28
2	防犯	4.41	2	老後の保障	4.53	2	原子力関連の安全対策	4.18	0.04
3	老後の保障	4.41	3	防犯	4.37	3	防犯	4.17	-0.20
4	環境衛生	4.27	4	雇用安定	4.32	4	老後の保障	4.16	-0.37
5	雇用安定	4.24	5	環境衛生	4.27	5	食の安全	4.11	-0.04
6	防災	4.21	6	高齢者福祉サービス	4.26	6	公害防止	4.00	-0.19
7	交通安全	4.21	7	公害防止	4.19	7	環境衛生	4.00	-0.27
8	公害防止	4.19	8	交通安全	4.17	8	交通安全	3.98	-0.19
9	福祉サービス	4.11	9	原子力関連安全対策	4.14	9	防災	3.98	-0.15
10	教育環境	4.07	10	防災	4.13	10	高齢者福祉サービス	3.97	-0.29
11	食の安全	4.05	11	教育環境	4.13	11	震災からの復旧・復興	3.97	新規
12	行政参加	4.02	12	リサイクル	4.12	12	地産地消	3.94	新規
13	交通の便	4.01	13	食の安全	4.07	13	人権尊重	3.92	-0.07
14	仕事の生きがい	3.97	14	交通の便	4.06	14	雇用安定	3.90	-0.42
15	道路整備	3.95	15	乳幼児・学童保育	4.03	15	交通の便	3.88	-0.18
16	雇用機会	3.94	16	障害児者支援	4.01	16	リサイクル	3.87	-0.25
17	乳幼児・学童保育	3.93	17	就業支援	4.00	17	教育環境	3.87	-0.40
18	学習・文化施設	3.66	18	仕事と家族の両立	3.99	18	地球温暖化防止対策	3.81	-0.15
19	市民活動	3.34	19	人権尊重	3.99	19	道路整備	3.79	-0.15
20	情報環境	3.17	20	地球温暖化防止対策	3.96	20	買物弱者	3.76	新規
			21	行政参加	3.95	21	行政参加	3.74	-0.21
			22	道路整備	3.94	22	障害児者支援	3.70	-0.31
			23	子育て相談	3.93	23	仕事と家族の両立	3.69	-0.30
			24	自然環境保護	3.79	24	就業支援	3.65	-0.35
			25	消費者相談	3.70	25	イメージアップ	3.65	新規
			26	地域行事	3.59	26	乳幼児・学童保育	3.64	-0.39
			27	外国人との共生	3.45	27	女性・高齢者の社会進出	3.60	新規
			28	市民活動	3.42	28	子育て相談	3.59	-0.34
			29	文化・スポーツ施設	3.40	29	自然環境保護	3.53	-0.26
			30	情報環境	3.34	30	地域行事	3.48	-0.11
						31	消費者相談	3.44	-0.26
						32	市民活動	3.26	-0.16
						33	文化・スポーツ施設	3.23	-0.17
						34	国際化	3.22	-0.23
						35	情報環境	3.17	-0.17

■ は今回追加した項目

表 1.4.1 重要度 (n=1946)

② 満足度

～前回調査に続き『リサイクル』がトップ、次いで『地産地消』～

※満足度は「満足している：5点」「やや満足している：4点」「どちらともいえない：3点」「やや不満である：2点」「不満である：1点」として項目ごとに回答者の平均値を算出した。数値が5点に近くなるほど満足度は高くなる。

- 満足度は「リサイクル」（平均 3.81）が最も高く、以下、「地産地消」（同 3.65）、「医療環境」（同 3.47）、「食の安全」（同 3.41）、「道路整備」（同 3.29）と続く。
- 前回調査と同じ 30 項目に限定して満足度を見ると、前回調査では平均 2.87 に対し、今回調査では同 2.89 となっており、満足度は若干上昇した。
- 前回調査と比べると、満足度の上昇度合いが比較的大きい項目としては、「環境衛生」（2.92→3.16，18 位→8 位）、「防犯」（2.98→3.12，13 位→9 位）があり、上位 10 項目に入っている。
- 一方、満足度の低下度合いが比較的大きい項目としては、「原子力関連の安全対策」（2.97→2.35，15 位→34 位）、「人権尊重」（3.27→2.80，6 位→20 位）、「食の安全」（3.64→3.41，2 位→4 位）がある。
- 今回新たに追加した項目では、「地産地消」（平均 3.41）が最も高く、以下、「買物弱者」（同 3.04）、「震災からの復旧・復興」（同 2.83）、「女性・高齢者の社会進出」（同 2.62）、「イメージアップ」（同 2.56）と続く。

満足度順位		2004年	満足度順位		2009年	満足度順位		2014年	前回比較
No.	項目	得点	No.	項目	得点	No.	項目	得点	ポイント差
1	食の安全	3.51	1	リサイクル	3.71	1	リサイクル	3.81	0.10
2	環境衛生	3.28	2	食の安全	3.64	2	地産地消	3.65	新規
3	公害防止	3.09	3	医療環境	3.36	3	医療環境	3.47	0.11
4	情報環境	3.05	4	情報環境	3.35	4	食の安全	3.41	0.23
5	学習・文化施設	3.04	5	道路整備	3.32	5	道路整備	3.29	-0.03
6	道路整備	3.01	6	人権尊重	3.27	6	情報環境	3.24	-0.11
7	教育環境	2.94	7	自然環境保護	3.19	7	自然環境保護	3.21	0.02
8	福祉サービス	2.90	8	市民活動	3.06	8	環境衛生	3.16	0.24
9	救急医療	2.86	9	公害防止	3.04	9	防犯	3.12	0.14
10	市民活動	2.78	10	子育て相談	3.04	10	公害防止	3.11	0.07
11	交通安全	2.77	11	仕事と家族の両立	3.03	11	買物弱者	3.04	新規
12	仕事の生きがい	2.77	12	地域行事	3.02	12	地域行事	3.02	0.00
13	交通の便	2.77	13	防犯	2.98	13	教育環境	2.95	-0.03
14	乳幼児・学童保育	2.71	14	教育環境	2.98	14	市民活動	2.92	-0.14
15	防災	2.69	15	原子力関連安全対策	2.97	15	仕事と家族の両立	2.89	-0.14
16	防犯	2.65	16	外国人との共生	2.95	16	交通安全	2.88	-0.02
17	雇用安定	2.58	17	文化・スポーツ施設	2.93	17	子育て相談	2.85	-0.19
18	行政参加	2.48	18	環境衛生	2.92	18	文化・スポーツ施設	2.85	-0.08
19	老後の保障	2.26	19	防災	2.92	19	震災からの復旧・復興	2.83	新規
20	雇用機会	2.13	20	交通安全	2.90	20	人権尊重	2.80	-0.47
			21	消費者相談	2.78	21	国際化	2.79	-0.16
			22	乳幼児・学童保育	2.77	22	消費者相談	2.76	-0.02
			23	障害児者支援	2.72	23	防災	2.75	-0.17
			24	地球温暖化防止対策	2.62	24	障害児者支援	2.68	-0.04
			25	高齢者福祉サービス	2.59	25	地球温暖化防止対策	2.64	0.02
			26	行政参加	2.54	26	高齢者福祉サービス	2.63	0.04
			27	就業支援	2.51	27	女性・高齢者の社会進出	2.62	新規
			28	交通の便	2.49	28	乳幼児・学童保育	2.61	-0.16
			29	雇用安定	2.33	29	イメージアップ	2.56	新規
			30	老後の保障	2.00	30	交通の便	2.55	0.06
						31	就業支援	2.53	0.02
						32	行政参加	2.53	-0.01
						33	雇用安定	2.46	0.13
						34	原子力関連の安全対策	2.35	-0.62
						35	老後の保障	2.19	0.19

は今回追加した項目

表 1.4.2 満足度 (n=1946)

③ ニーズ度

～前回調査に続き『老後の保障』がトップ、次いで『原子力関連の安全対策』～

※ ニーズ度は、満足度と重要度について5段階で回答を求め、以下の算式により数値化して求めた。

「ニーズ度＝重要度×不満足度」

(不満足度は、満足度とは逆に、「満足している：1点」「やや満足している：2点」「どちらともいえない：3点」「やや不満である：4点」「不満である：5点」として項目ごとに回答者の平均値を算出して、重要度に乗じた。不満足度は5点に近くなるほど不満足は高くなる。)

- 各項目に対する重要度と満足度から県民のニーズ度を測ると、「老後の保障」（ニーズ度 15.3）が最も高く、以下、「原子力関連の安全対策」（同 14.5）、「交通の便」（同 13.2）、「高齢者福祉サービス」（同 12.7）、「雇用安定」（同 12.5）と続く。
- 前回調査と比べると、1位は、「老後の保障」で同じとなったが、「原子力関連の安全対策」（9位→2位）や「防災」（13位→6位）、「人権尊重」（21位→13位）などが大きく順位を上げた。
- 今回の県民ニーズ度上位10項目を見ると、前回調査の上位10項目の内の6項目（「老後の保障」、「交通の便」、「高齢者福祉サービス」、「雇用安定」、「行政参加」、「地球温暖化防止対策」）が残ったほか、今回追加した「イメージアップ」（9位）、「震災からの復旧・復興」（10位）の2項目が入った。

ニーズ度順位 2004年			ニーズ度順位 2009年			ニーズ度順位 2014年 前回比較			
No.	項目	得点	No.	項目	得点	No.	項目	得点	ポイント差
1	老後の保障	16.5	1	老後の保障	18.4	1	老後の保障	15.3	-3.1
2	雇用機会	15.2	2	雇用安定	16.2	2	原子力関連の安全対策	14.5	-0.3
3	防犯	14.8	3	高齢者福祉サービス	14.8	3	交通の便	13.2	-1.2
4	雇用安定	14.5	4	交通の便	14.4	4	高齢者福祉サービス	12.7	-2.1
5	行政参加	14.1	5	就業支援	14.2	5	雇用安定	12.5	-3.7
6	救急医療	13.9	6	行政参加	13.9	6	防災	12.3	-0.5
7	防災	13.9	7	地球温暖化防止対策	13.6	7	行政参加	12.2	-1.7
8	交通安全	13.6	8	障害児者支援	13.4	8	地球温暖化防止対策	12.0	-1.6
9	交通の便	12.9	9	防犯	13.3	9	イメージアップ	11.9	新規
10	乳幼児・学童保育	12.9	10	環境衛生	13.2	10	震災からの復旧・復興	11.9	新規
11	仕事の生きがい	12.8	11	乳幼児・学童保育	13.2	11	交通安全	11.9	-1.1
12	高齢者・障害児・者福祉サービス	12.7	12	交通安全	13.0	12	防犯	11.8	-1.5
13	教育環境	12.5	13	防災	12.8	13	人権尊重	11.6	0.7
14	公害防止	12.2	14	原子力関連の安全対策	12.6	14	就業支援	11.3	-2.9
15	道路整備	11.8	15	公害防止	12.6	15	女性・高齢者の社会進出	11.2	新規
16	環境衛生	11.6	16	教育環境	12.6	16	障害児者支援	11.1	-2.3
17	学習・文化施設	10.8	17	医療環境	12.1	17	公害防止	11.0	-1.6
18	市民活動	10.7	18	消費者相談	12.0	18	環境衛生	10.8	-2.4
19	食の安全	10.1	19	仕事と家庭の両立	11.9	19	買物弱者	10.8	新規
20	情報環境	9.4	20	子育て相談	11.6	20	教育環境	10.6	-2.0

■ は今回追加した項目

表 1.4.3 県民のニーズ (n=1946)

④ 各項目の重要度・満足度配置

- ・重要度を横軸（表の右に行くほど重要度は高くなる）、満足度を縦軸（表の上に行くほど満足度は高くなる）にとり、調査結果に基づいた各項目の配置を示した。
- ・表中では重要度・満足度の平均値を波線で示すことにより、便宜上、表をⅠ～Ⅳまでのカテゴリに4分割した。
- ・カテゴリⅠに配置された項目が「重要度が高く、かつ満足度も高い」項目、カテゴリⅣに配置された項目が「重要度は高いが、満足度が低い」項目となる。

○ 重要度が高いが満足度が低いカテゴリⅣの中でも「老後の保障」、「原子力関連の安全対策」が右下隅に位置しており、突出している。

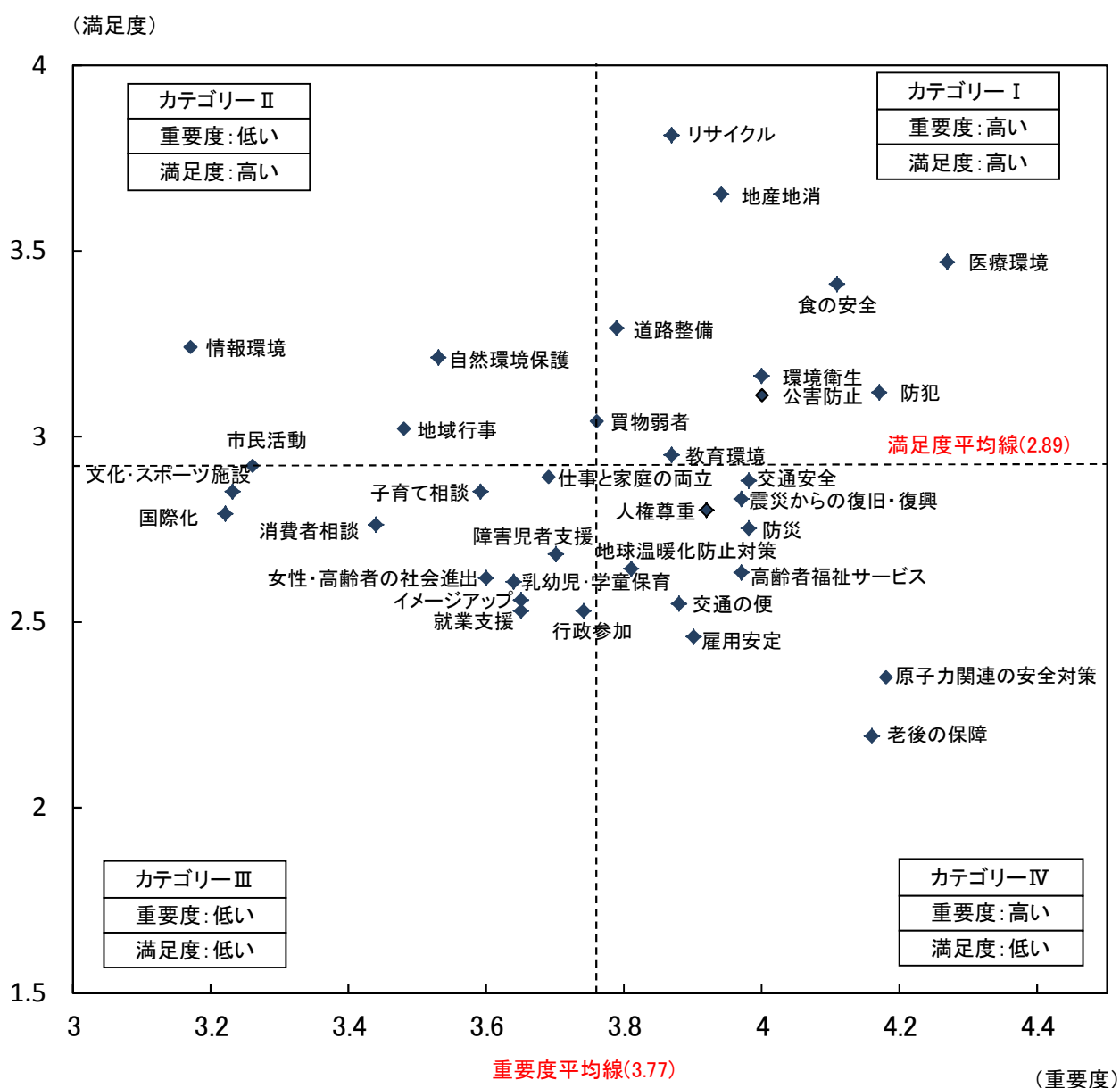


図 1.4.4 各項目の重要度・満足度配置 (n=1946)

(5) 地域の将来像

～ 4割以上が『高齢者や障害者が安心して暮せるまち』を期待～

- 住んでいる地域の将来の姿として期待する”まち”としては、4割超が「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」(45.2%)を挙げている。以下、「教育や子育ての環境が整備されたまち」(22.8%)、「交通が便利なまち」(17.9%)、「若者や女性、高齢者が活躍するまち」(17.0%)と続く。
- 前回調査に比べると、第1位の「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」、第2位の「教育や子育ての環境が整備されたまち」は同じ順位であったが、「交通が便利なまち」(5位→3位)が前回調査から順位を上げた。
- 今回新たに追加した項目では、「若者や女性、高齢者が活躍するまち」が17.0%、「建物の耐震化など災害への備えが充実しているまち」が12.1%だった。

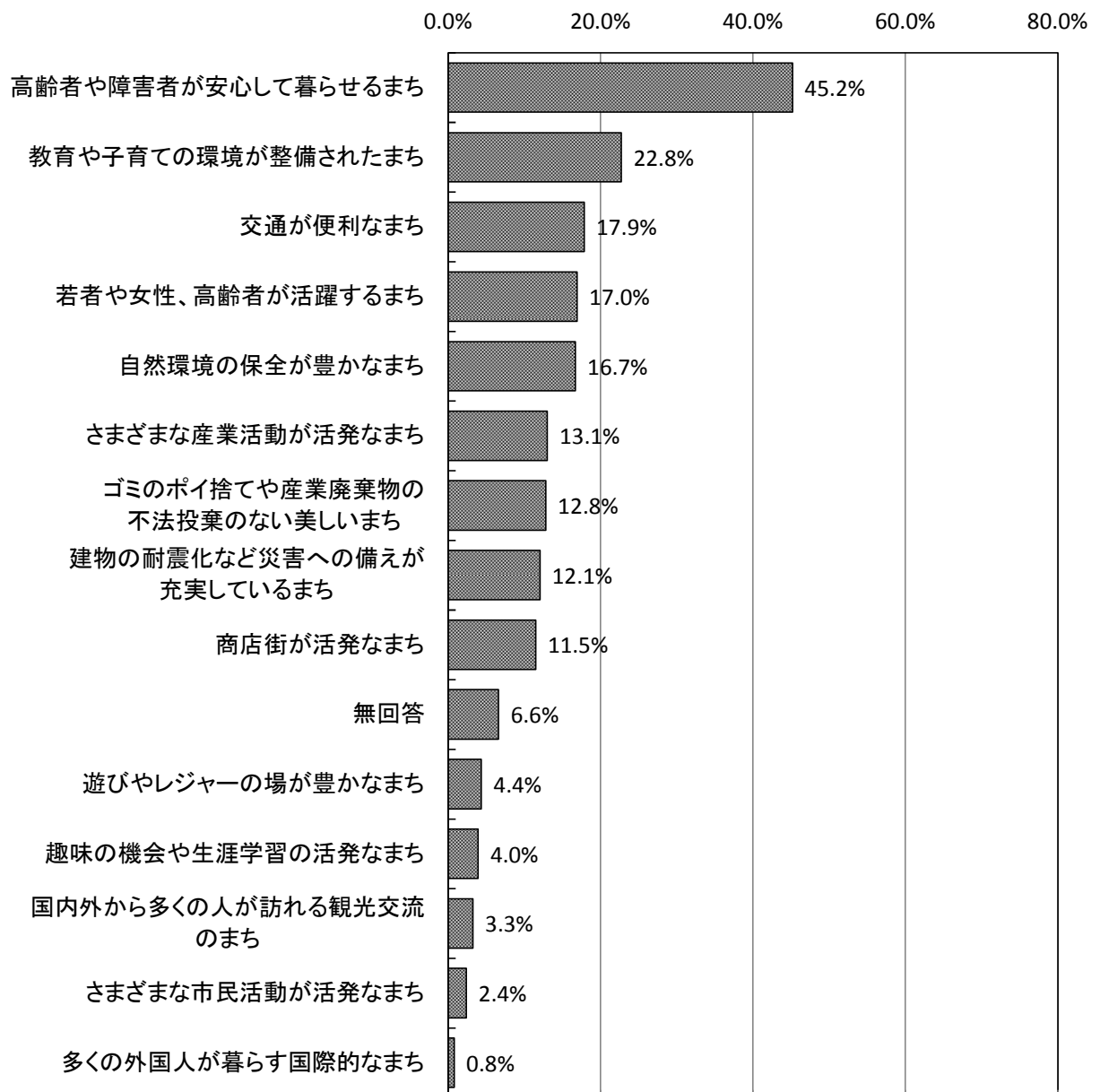


図 1.5.1 住んでいる地域の将来像 (n=1946)

(6) 県に期待する人口減少対策

～ 4割以上が『保健, 医療, 福祉の充実』を期待, 次いで『働く場の確保』～

- 今後, 県に力を入れてもらいたい人口減少対策としては, 4割が「保健, 医療, 福祉の充実」(42.8%)を挙げており, 次いで「企業誘致や企業支援による働く場の確保」(35.5%), 「出産支援・子育て支援」(33.1%)と続く。

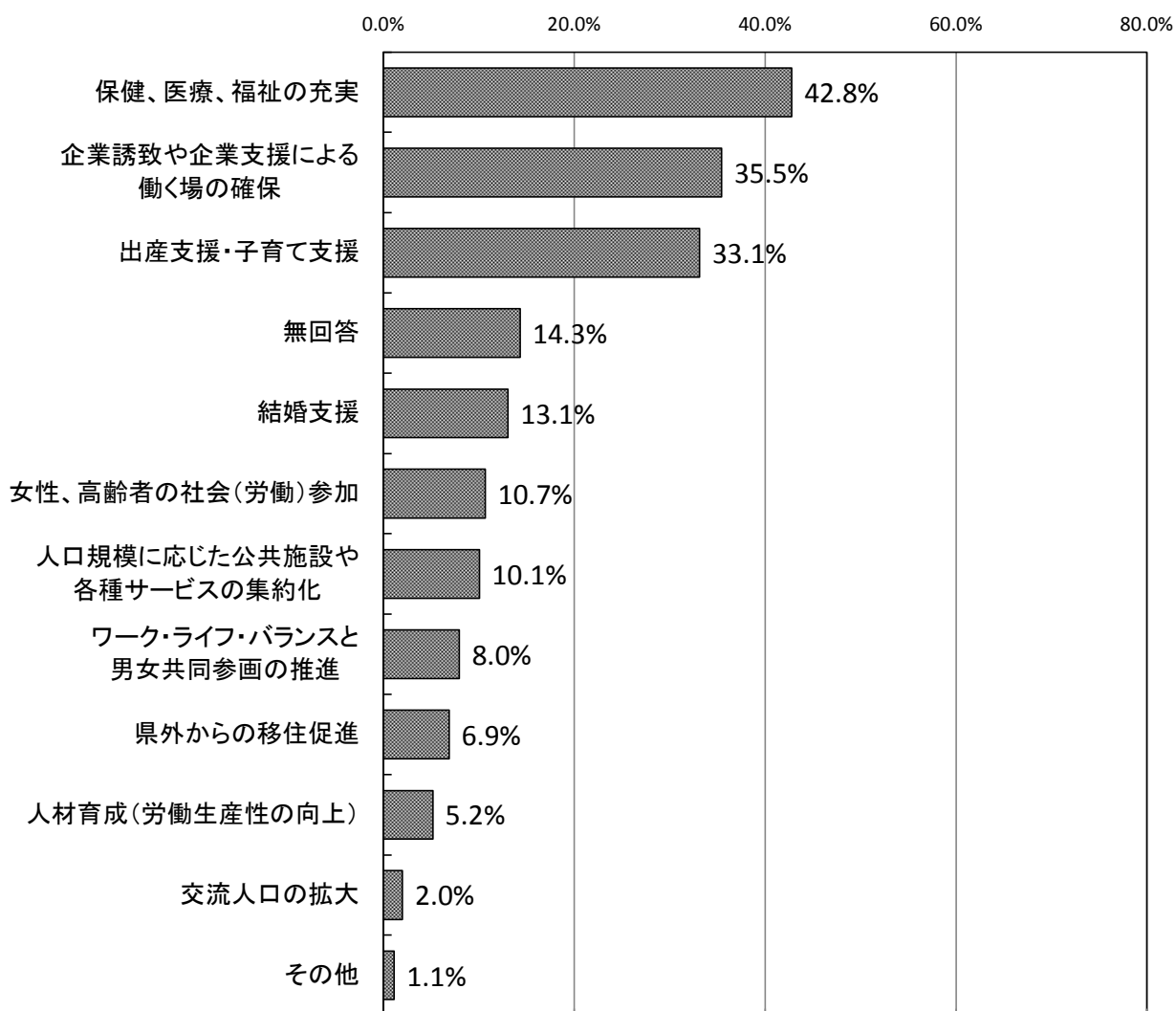


図 1.6.1 将来の人口減少対策 (n=1946)

(7) 回答者の属性

